

紀の川市基本構想骨子(案)

1. 紀の川市の将来像

■ 将来像

「実るまち、つながる紀の川」

—— 自然と人、過去と未来が寄り添いながら、心豊かに生きられるまちへ——

■ まちの未来を描く視点

紀の川市は、豊かな自然と歴史、そして温かい人のつながりに支えられてきたまちです。今、このまちに生きる私たちは、少子高齢化や人口減少といった課題に直面しています。けれども、それは「縮む未来」ではなく、「選び取る未来」の始まりでもあります。

今後の紀の川市の未来のために地域の知恵や絆を生かしながら、デジタルや新しい技術も味方につけ、「人が主役のまちづくり」を進めていきます。

これから、紀の川市は“持続可能で心地よい暮らし”を形にしていきます。

2. まちづくりの目標

■ 1. 暮らしを支え合うまちへ

少子高齢化が進む中でも、子どもから高齢者まで、安心して暮らせる地域を目指します。

地域包括ケアの充実により、身近な場所で支え合える仕組みを整えます。

子育て世代には、仕事と家庭を両立しやすい環境をつくり、地域ぐるみで子どもを見守る温かなまちを育てていきます。

高齢者が培ってきた知恵や経験を活かし、世代を超えて支え合う地域へ。

「助ける人」「助けられる人」という関係ではなく、“みんなが誰かの力になれるまち”を目指します。

■ 2. 未来をひらく産業のまちへ

紀の川市の強みは、全国に誇る果樹や農産物、そしてその恵みを育む豊かな自然です。

これを次の世代に引き継ぐために、環境にやさしい農業(スマート農業・脱炭素農業)を進めます。

農業と観光、商業、福祉がつながる「地域産業エコシステム」を築き、地元で働く魅力と誇りを感じられるまちを目指します。

また、DX(デジタル化)の力を活かして、物流や販売の効率化、農業経営の高度化を支援します。

地元企業や若者がチャレンジできる土壌を整え、「紀の川発のブランド」や「関係人口を生む産業づくり」に取り組めます。

■ 3. 学びと挑戦がめぐるまちへ

教育はまちの未来を育てる力です。

子どもたち一人ひとりが、自分の可能性を信じて伸ばせるよう、ICT教育の推進や学校の再編を通じて、学びの環境を整えます。

また、地域の文化や歴史、自然を活かした「ふるさと教育」を進め、郷土への誇りと、世界へ羽ばたく力の両方を育てます。

社会人や高齢者にとっても、学びや挑戦の機会を広げ、誰もが人生のどの段階でも「もう一歩前へ」進めるまちを目指します。

■ 4. 安全で快適に暮らせるまちへ

災害や気候変動に強いまちづくりを進めます。

防災インフラの整備と同時に、地域住民が自ら守り合う「共助の防災文化」を根づかせます。

また、公共交通や道路網を整備し、移動のしやすさと暮らしやすさを両立させます。

デジタル技術を活かした「スマート防災」「見守りネットワーク」も導入し、誰もが安全に、そして自分らしく暮らせる地域社会を築きます。

■ 5. 自然と共に歩むまちへ

紀の川は、このまちの原点であり、未来への希望です。

清らかな水と緑、四季折々の風景を守りながら、人と自然が共に息づくまちをつくります。

脱炭素社会への移行を見据え、再生可能エネルギーや省エネの取組を進めます。

里山・河川・農地を未来の財産として守り育てることで、環境と経済の両立を実現します。

■ 6. つながりを育てる行政経営へ

限られた財源と人材の中で、最大の成果を生む「行政経営」を進めます。

EBPM(根拠に基づく政策立案)を重視し、データと現場の声をもとに政策を磨きます。

また、県や近隣市町との広域連携を強化し、一市だけでは解決できない課題にも、協働で挑みます。

市民・企業・行政が「対等なパートナー」としてつながり、共にまちの未来を創っていく。

それが、これからの紀の川市の姿です。

■ おわりに

10年後、紀の川市は“ちょうどいい豊かさ”を感じられるまちになっています。

派手さはなくても、日々の暮らしに安心と誇りがある。

自然と人が調和し、地域が自分たちの手で未来を育てている。

そんなまちを、私たちはこの10年で実らせていきます。

—— 実るまち、つながる紀の川。

この言葉を胸に、一歩ずつ、確かな未来へ。